

本県在住の漫画家「もぐす」さん 連載作品35万部突破

「故郷で描き続けたい」

本県出身・在住の漫画家「もぐす」さん。弘前大学出の作品が人気だ。ウェブ漫画誌「comic POOL(コミックプール)」で連載中の「恋と呼ぶには気持ち悪い」(一迅社)が2巻まで単行本化され、累計発行部数35万部を突破した。「夢のよう」と語るもぐすさんは、愛する青森の地で作品を描き続ける。(西尾瑛)



累計発行部数35万部を突破した、もぐすさんの「恋と呼ぶには気持ち悪い」

幼少期から絵を描くのが好きで、弘大卒業後一般企業に勤めながらも趣味で描き続けた。その絵はイラスト投稿サイト「pixiv(ピクシブ)」で人気となり、一迅社の目に留まった。

漫画家としてスタートを切ったもぐすさんは、読み切り作品から始め、その後、女子高生・有馬一花と一花に狂信的な恋をした社会人・天草亮のストーリー「恋と呼ぶには気持ち悪い」を本格的に漫画化。2016年2月に第1巻、16年11月に第2巻が出版され、累計35万部を突破した。

同作品は一迅社とpixivの共同運営によるウェブ漫画誌「comic POOL」で月1回連載中で、もぐすさんは絵は納得いくまで書き直し、「この話は本当に面白いのかな」と悩むことも多々あるというが、一迅社の担当編集者は「バランスの取れた万人に愛される魅力的な絵であり、場面の見せ方もうまい。何よりも丁寧」と評する。

読者からはSNSで多くの感想を寄せられ「すごくうれしかったが、そんなに青森から

出ないし、本当にみんな読んでくれているのなかなか実感湧かなかった」ともぐすさん。「去年東京でサイン会を開かせてもらって、(直接ファンと会い)本当に読んでもらってるんだなって。感動しました」と喜びを語る。



4月18日発売の「黒き者への詩」もぐす作品集(一迅社提供)

東山魁夷をはじめ、日本画の落ち着いた色合いが好きなのだといふ。昔は絵で食べていたのは無理だろうな思っていた。こうやって今仕事をしているのは信じられない」と語るもぐすさん。これからもこの地で作品を書き続けたいと願う。「青森の静かな環境が漫画を描くにはすこい。それに、春夏秋冬

4月18日には、短編を収めた作品集も全国発売される予定で「恋と呼ぶには」とはまは昭和を代表する画家

で表情を変えるリンドロの風景が好きで。新しい作品集には、リンドロの木をモチーフにした作品も含まれていてみたいですね

「今後また違った作品も描いてみたいし、青森や弘前とコラボしたものにも挑戦してみたいですね」

陸奥新報 2017年4月14日(金)3面掲載

※この記事は陸奥新報社の提供です。
 ※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。